

プログラム

- *開会のあいさつ 司会進行 赤嶺 太一・赤嶺 秀義
- *神事(豊見瀬御嶽・ヒララス御嶽・穂花の御嶽) 豊見城龍船協会 会長 金城 豊明
四カ字のノロ、神人
- *ウサンデー 【御神酒(豊見城)／菖蒲・アマガシ(嘉数)／ポーポー(根差部)／マーミナズネー(真玉橋)】
- *来賓あいさつ 市長 山川 仁
- *ハーリー歌・空手の奉納演武 那覇爬龍船振興会 有志の皆さん
- *あいさつ 市観光協会 会長 大城 勤
- *あいさつ 那覇爬龍船振興会 会長 嶺井 政治
- *空手の激励演武 沖縄伝統空手道振興会の皆さん
- *あいさつ 那覇爬龍船振興会 会長 嶺井 政治
- *閉会のあいさつ 豊見城龍船協会 副会長 当 銘 優

2019年
7月28日(日)

第12回
豊見城ハーリー大会
開催!!

会場：豊崎美らSUNビーチ
北側護岸

重陽宴圖

龍潭で龍舟の遊びの記録図(重陽の宴)
1719年(尚敬王)冊封使来琉。正使海宝、副使徐葆光。
御冠船踊の始。



ハーリー行事は王府事業だった 発祥地：豊見城

王府の史書

『球陽』に見るハーリー

一説では、汪応祖はかつて南京の国子監に留学した時、龍舟を川に浮かべて競漕するのを見て大変感動した。琉球に帰ると、すぐに豊見城の地を選んで川沿いに城を築いて居住とした。この時に、汪応祖は中国の製法にならぬ龍舟を作り、五月はじめに那覇江中(漫湖)に浮かべて玩楽(遊覧)をした。人々はそれを見習って龍舟を作り、五月四日になると各村の龍舟は必ず豊見城城下に来て競漕してお目にかけた。

毎年端午の前日(五月四日)に那覇、久米泊の龍舟は、豊見城城内にある豊見瀬威部にお参りし、豊見城ノロに従いお供え物をして景福(世界報)を祈った。

龍舟の漕ぎ手たちは、城下の津屋(港)に上陸し、そこから豊見瀬威部に向かって礼拝し、それによってハーリーは始まった。

『球陽 卷一付紀』 察度王四五年1393年

中国古来の龍舟



▲漢代(西暦202~950年)のドラ艇に描かれた龍舟。



明代水印木刻龍舟圖

▲明代(西暦1368~1644年)の龍舟。
ムカデ旗を掲げて順雨を祈願している。



清代(賜福龍舟)年畫

▲清代(西暦1644~1938年)の龍舟。絵図
賜福龍舟の旗をかざし景福を祈願している。

琉球王府時代から国家旧来の礼儀として端午の節句前日(旧暦五月四日)に那覇ハーリーは行われ、豊見城グスク内の拝所に拝礼するためハーリー3隻に120余人が乗組、城下の津屋(港)まで漕ぎ寄せる(豊見城上り)行事があったようであるが廃藩置県(明治12年)を境にしてその行事も途絶え、現在ではハーリー歌に「豊見城ぬぶてい」と歌われ、その名残を伝えている。

また、豊見城城下一帯はマングローブが繁茂し、野鳥が飛来する都市部にある干潟としてラムサール条約に登録された保護区でもある。歴史と民俗、自然に恵まれたこの豊見城と城下の漫湖一帯の今後の整備や保護の進め方について、地域住民や県民が関心を寄せる機会となることを望んでいる。

私たちは、伝統行事に込められたロマンや、まつりに参加し見物する人々のパワーの素晴らしさを知っており、毎年継続して開催することにより、地域の活性化を促進する素材にしたい。